

AD PREVIEW ~ 2013 EDGE ~



2013年12月11日 新ADproject 初披露目
 舞台となったのは株式会社パソナさんが管理する”東京タワースタジオ”内「スターライズタワー」
 東京タワーが見守る中、AD PREVIEW は始まりました
 コンセプトは”EDGE”
 刃物の様にきりと光るエンターテインメントを盛り込んだ新たなADproject
 そのプレビューとしての舞台にお越しいただいた皆様楽しんで頂けたなら幸いです
 そして、残念ながらご都合上お越し頂けなかった方々のためにこの場をお借りして紹介させていただきます

会場を包むような大きなスクリーンにランウェイスタイルの舞台

ADproject General Producer 榎垣 俊幸

会長からゼネラルプロデューサーとなった榎垣俊幸から始まる

この日のために作った”EDGE”ソング

EDGE

第1プロジェクト初瀬川裕介も踊り

第4プロジェクト橋元大介も踊った

岩下兄弟の進行によるピンゴ大会

今後ともADprojectをよろしくお願ひいたします

この日のために作ったおしゃれなコックコート

1, "LIVING ON THE EDGE"
 2, "POSITIVE AD PROJECT"
 2曲収録!!
 先着5名様にプレゼント!!
 ご応募はメール (adtain@adproject.co.jp) または、お近くのAD社員までお声掛けください。

ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp までメールでお寄せください。
 発行：株式会社エーディープロジェクト 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 共同ビル

www.adproject.co.jp

2014 1
 vol.020

Legend



第1回 美意識

ゼネラルプロデューサー
 榎垣 俊幸

■未来に学ぶ
 歴史に学ぶ時代では、学習と言う過酷な時を費やさなければ成りません。また、記憶脳である左脳の能力を屈指し、それを思考能力に変換できる読解力を必要とします。
 一方、未来に学ぶ時代では、右脳領域である・企画力・想像力・物語力・夢など創造分野での遊ぶ楽しさがあります。それは「答えを自分で創り出す」という自己実現への楽しさでも有ります。それを、格好良く言えば「夢に学ぶ時代の到来!」と言う事が出来ます。更に様々な答えを作り出すオリジナルな楽しさがあります。初恋の様な楽しさです。あーかな?こーかな?好きかな?嫌いかな?などあれこれと迷い想いを寄せ、未来を期待する楽しさがあります。人間は本来「未来を迷う旅人」でもあります。日中韓問題の様に歴史に学ぶ思考は、見解の相違やプライド、意地の問題に成りかねません。むしろ、国際関係も、未来の在り方に学ぶ事によって、すべては解決できる仮説や夢が期待されます。私達が情報加工業の従事者であれば、未来を提示できるポジティブな思考回路を使う事で、夢があり、創造力を掻き立て、わくわくする方向性を示す事が大切です。「貴方」といって夢が湧き、元気が出る」と言われる事が自分達の売りである事を忘れないで下さい。それが、この社会で生きる、もう一人の自分の役目なのです。大事なのは知的創造力を持つ事です。即ち、美学の創造です。他者は「自分にどんなグッドウィルをもたらすのか」という事に期待をしているのだろうか?という問い掛けの予測と想像像を行い、その役割を創造(クリエイト)していく事に期待しています。そして「期待に応え、期待を破る」これらを構成する事から物語は、語られ始めます。歓喜のある物語として演出されていき、もう一人の自分として「役」を演じることが「未来への旅」です。そうする事で、未来を予測する様々な因子を吸収し、思考回路の動力として燃やしていく事で「未来を学ぶ時代」の醍醐味が生まれます。



EDGE
 Positive mind

adtain
 adproject - entertain newspaper

モデル: Nastia / Height: 179cm B: 85 W: 60 H: 88
 事務所: ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) http://artrick.com

adtainとは、adprojectとentertainが融合した「おもてなし」のトピックス誌

■未来を意識する
 未来を学ぶ為には、まず未来志向の自分を呼び出す事から始まります。それは、自分を信頼し、ポジティブな自分を呼び起こし、美しい自分の大好きな自然を意識し、同化しなければ成りません。修正や改革でなく、新しい発想のビジョンを創造する為にはこれらのプロセスから、出発しなければ成りません。企画や演出など、「発想の美学」と言えるクリエイティブ作業にステップを進める為の重要なプロセスがあります。未来を意識する力の呼び戻しなのです。人は、これら未来を意識できる能力を持っています。この能力を使わなくて企画にコアコンピタンス(中枢能力)を持たず事が出来ません。このポジティブ・コンピタンスを持ったクリエイティブは、必ず伝わった時ポジティブな未来を想起させ、楽しい未来を創造させる力を持ちます。未来は、ポジティブで、ダイレクトで、エッジの効いた人、モノ、事、が拡張していきます。それは、未来意識の中から創出されたものだからです。更に、今までに経験したことのない事態が横行し混乱します。そして、人口が半減し人類の量的危機から脱出します。それは、時代が進化と言うコンセプトだからです。私達のadprojectがワーキング作業からシンキング作業の会社に成る事は大切です。それは、シンキング作業とは、未来創造の世界を司り、多くの人々を楽しませ幸せな世界を未来イメージして実感するからです。adprojectに触れた、企業、団体や人、モノ、など、万物がポジティブな未来予測を出来る力を持つ事は、私達の未来に課せられた指令(プロトコル)です。エンターテインメント志向の拡張は、創業以来20年間訴求してきた活動でしたが、新しい未来進化のベクトルはポジティブ・マインドの発想に向かいます。確かに、この20年でエンターテインメント志向はすべての分野に拡張し、標準化しました。私達はこれから、楽しく、嬉しい未来を創造する為のイメージ未来創造や、未来思考回路に未来社会進化活動として、これからのadprojectとの主体性と成ります。その為には、皆さんも万事をポジティブなイメージに進化させてみてください。朝起きる時や朝食の食べ方、通勤のルート、会社に出勤した時の挨拶、仕事にかかる時の微笑みなど、それぞれの行動規範にポジティブ進化しているかどうかイメージ進化する事から始めてください。そして、一番大切な事は、「今日を楽しむ力を持って」「今を楽しむ力を持つ事!!」です。この力、無くして未来を創造する事は出来ません。即ち、ベストコンディションの中に自分ベスト・プラクティスは無いと言う事です。自分をベスト・コンディションに持っていく能力は、自分の意識の中にあります。決して他者や環境ではないのです。更に、「楽しい暮らしを演出する」演技能力も必要です。

■未来を創造する~結論です~
 「楽しい暮らしを演ずる事が、未来を創造する」即ち、苦しい暮らしや、悩みからは何も生まれ無いと言う事です。むしろ、悩みは、悩みを呼び、ダウンサイジングのスパイラル落下でしか無いと言う事です。楽しく仕事をする事がいかに大切であるかが、成功の秘訣です。それは、楽しい所に、楽しい人はやってきて、楽しそうな人に声を掛ける。この声を掛けられる事が、未来創造する為の必須条件です。その為には、自分の中の「愛」と「笑顔」を大切にしてください。若い時は、いろいろな、自分や他者との駆け引きをしますが、それらを「未来の創造」の為に活かす為には重要なファクトです。未来とは、楽しい創造の事であり、ポジティブな世界が広がる事であるとする事で、皆さんの勇気や元気は生まれてきます。そのリーダーとして私達のadprojectは有ります。出来るだけ多くの企業や人、モノ、事を「未来創造の世界」にお招きをして、楽しい暮らしで生涯を過ごせるようにしてください。そして、更に、その為にも、健康である事が基本だと、体験論的に付け加えておきます。



今月の一言
 コピーライター 村野 文香

今が最高の贈りもの
 「present」には、「贈りもの」のほかに「今」という意味があります。今、こうしていられることが、最高の贈りもの!なのかもしれません。

facebook adproject

adproject 公式 facebook を check

adproject がお届けするエンターテインメント情報を随時UP!!

皆様の いいね! をお待ちしております。

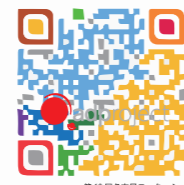
facebook adproject

もしくは、https://www.facebook.com/adproject.japan



阪本 崇裕

- Event : 名古屋モーターショー
- Date : 12/12 ~ 12/15
- Place : ポートメッセなごや



行ってきました、名古屋モーターショー。12/12～12/15にポートメッセなごやで開催された名古屋モーターショーに、クライアントであるホワイトハウスさんがブースを出展しました。ブースの見所はなんとホワイトハウスさんが手掛ける、様々なインポートバイクが一つのブース内で楽しめるということです。展示ブランド数は8ブランド！台数にして22台ものプレミアムなバイクが並ぶ圧巻のブースとなったのです。バイクブランドの展示数でいえば、なんと東京モーターショーよりも多いのです。一つのブースに複数のブランドのバイクが並ぶ光景は、大規模なショーでもなかなかお目にかかれませんが、それだけに、バイク好きはもちろん、バイクに興味が無い方も目引き、ブース内は連日ごった返しの状態で、嬉しい悲鳴の日々でした。また、さらに多くの人で賑わう土日は、ホワイトハウスのスタッフさんだけでなく、各展示ブランドのメーカースタッフさんも応援に駆けつけてくれました。さすがメーカーさんの車両説明は説得力抜群。ブースにいらっしゃったお客様も一様に満足の様子でした。

今回の仕事で感じたのは、ブースに詰め込まれた「コンテンツ力」がいかに重要かという点です。お隣さんとなった、ナショナルブランドたるホンダさん、三菱さんにはブースの規模では正直言って敵いません。ですが、今回のホワイトハウスさんのブースには、見ていてワクワクする海外のバイクがこれでもかと詰め込まれていました。ショー会場をあちこち歩き回らなくても、一つのブースで数多くのバイクが楽しめるというブースのコンセプト、すなわちホワイトハウスさんのコンテンツは、巨大メーカーさんの発するコンテンツにも決して負けておらず、お客様にも楽しんでいただけたのでは、と手応えを感じました。ブース作りには予算、デザイン、スペース、演出など多くの要素が絡んできます。が、しかし、一番大事なのは良質なコンテンツを生み出そうとする心意気なのだと思えて感じたショーでした。



↑ ハーレーよりも歴史にあるインディアンバイクはブース正面でお客様をもてなす

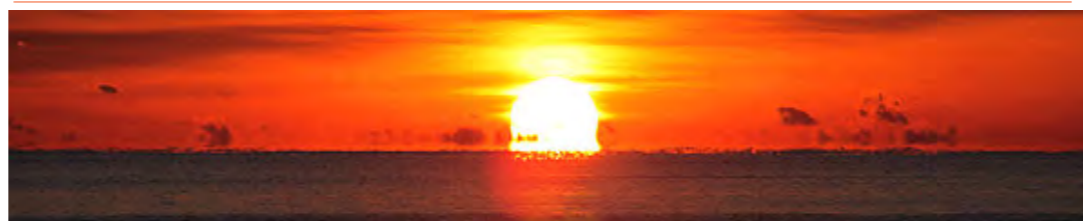
Project 1.



新年明けましておめでとうございます。



EXECUTIVE PRODUCER : 平田 元春



一年の計は元旦にあり

新しい年、2014年 午年の幕開けです。午年はとても運氣の上がる年とされています。「跳ね上がる」「ジャンプする」「走りぬく」といった感じです。そこで、新年にあたり、今年の目標を作成することをお勧めします。云わば、「2014年自分計画」の作成です。

①自分の目的の確認

- ・今考える自分の目的
- ・会社における自分の目的
- ・人生における自分の目的

②自分の行動の確認

- ・目的に向かっての行動の確認
- ・仕事における行動の確認

③自分の良い点・悪い点の確認

- ・良い点のさらなる向上
- ・悪い点の改善策

④目標の設定

- ・今年の目標の設定
- ・人生の目標の設定



2014年の自分磨きは何を目標とし、どう行動していけば良いのか等、1年に1度この機会に考えてみてはいかがでしょう？きっと、仕事の上で役立つことでしょう。追伸：こんなことを言っている私は何も出ていませんでした。ショック！ショック！因みに、元旦は私の誕生日でした。

Project 3.



PRODUCER : 飯塚 かおり

- Event : スーパーオクトーバーフェスト in 東京ドーム 2013
- Date : 2013年11月28日(木)～12月1日(日)
- Place : 東京ドーム



新年明けましておめでとうございます！！！！
PROST！！（プロースト！！）



さて、『プロースト！』とはドイツ語で『乾杯！』という意味なのですが皆様ご存知でしたか？第3プロジェクトでは2013年11月28日(木)から4日間開催されたスーパーオクトーバーフェスト in 東京ドーム2013のステージ進行をお手伝いさせて頂きました。「オクトーバーフェスト」は、新しいビールの醸造シーズンの幕開けのお祝いとして、ドイツ・ミュンヘンにて毎年開催されている世界最大のビールの祭典です。ここ最近日本各地でも開催され一度は耳にしたことがある方も多いと思いますが、東京ドームで開催されるのが国内最大規模であり、今年で2度目となりました。ステージでは本国ドイツから来日したホフプロイハウス・ショウの演奏や石野卓球さんのDJライブ、電撃ネットワークの過激パフォーマンスなど4日間盛り沢山のコンテンツでお贈りし、来場者には大いにお楽しみいただきました。大いに盛り上がった舞台の裏側は…実は本番直前まで(当日になっても!?) 詳細情報が不明な出演者がいたこともあり、何を言われても対応できる体制は整えつつ、ほぼ現場対応というバタバタ状態。。。そんな現場を経て、何が起るかわからない現場こそ、何にでも対応出来る準備(モノだけではなく、ヒトを含めた体制)と物事をポジティブに転換する発想の柔軟性が大切だと改めて感じました。今回に限らず、今後も完璧に出来上がった状態で進行するイベントはないと思うので、その都度起こるハプニングに対応するための事前の体制づくりと対応力を今後も磨いていきたいと思います。

石川 華奈子

今年、石川の2014年!!

明けましておめでとうございます!!
そして、改めて2013年4月に入社いたしました石川華奈子です。入社して早9ヶ月が経ちました。先月は、「AD PREVIEW」の司会&映像制作を務めさせていただきましたが…。入社するまでは、まさか自分が皆様の前でステージに立ったり、映像制作に携わるなど想像もつかず、振り返ってみると激動の2013年でした。そんな私ですが毎年、年を越す際にやっていることがあります。それは、それまで使っていた手帳のメモ書きスペースに

- ・1年を振り返って良かった事・悪かった事ニュースベスト10
- ・1年で変わった事ベスト10
- ・来年の目標ベスト10

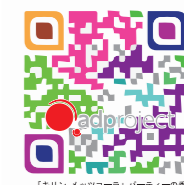
というのを付けています。この習慣は、母がやっていたもので中学生の時に一緒にやったのがきっかけでそれからずっと続けています。もちろん書き込んだ手帳はずっと保管してあります。手帳の数もどんどん増え、読み返すたびに「こんな事で…」と恥ずかしくなることばかり。恋愛や勉強、友人関係と話題は色々で誰にも中は見せられません。ですが毎回、少しずつでも自分が成長し大人になっているのがわかります。社会人になった私は、本当の意味で大人の仲間入りをしたわけですが…そんな私が書いた2013年の手帳を何年後に読み返して、少しでも、いや!! 大きな進化を遂げられるように今年も頑張っていきたいと思っています。そのために、まずは「2014年の目標ベスト10」をこなしていこうと思います! 「継続は力なり!!」皆様、今年も宜しくお願い致します!!

Project 2.



PRODUCER : 宮崎 詩子

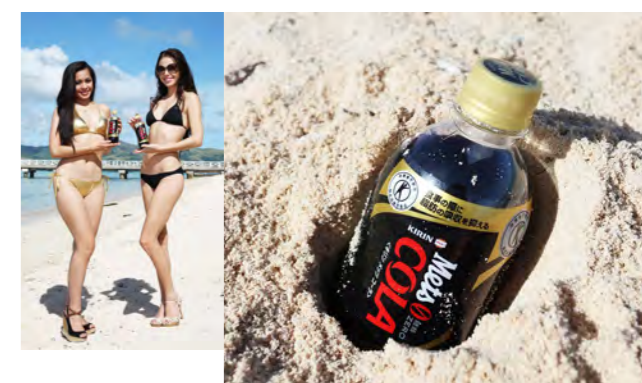
- Event : キリンメッツコーラ島
- Date : 2013年12月
- Place : グアム



まもなく3億突破!で話題になっている、特保のキリンメッツコーラ。12月のはじめにクローズド懸賞の当選者ツアーの運営のディレクションでグアムに行ってきました。グアムの南方にある小さな島のネーミングトライズを取得し、「キリンメッツコーラ島」として当選者に貸し切りイベントを行うというものです。CMでオールド・ブルームがメッツコーラと共に食していた、たこ焼きやホルモン焼きなどを、和風屋台で展開したり、「クルージンクーラー[※]」を使って参加者全員でレースをしたり…と、島内既存のマリンアクティビティ以外にも盛りだくさんの内容で行われました。

イベントにハプニングはつきもの、と言いますが、当案件でもご多分に漏れず…やはりありました。前日のリハーサル時に、イベントの肝となる『クルージンクーラーグランプリ』で使用する車体のバッテリー持久時間にバラつきがあることが発覚し、急遽レース内容についてスタッフ全員で頭を悩ます事態となりました。起こりうるハプニングを最大限回避すべく、さらにクルージンクーラーに全組が乗れることを優先的に考えて、ラン中心の一部クルージンクーラー、というレース内容に変更し、本番では公平なレース運営を行うことができました。決勝戦に至っては、始まる直前まで全スタッフで、メッツコーラやグアムに纏わるクイズを作成し、ADKアーツの名司会者、鈴木さんの力にも助けられ、参加者全員で最後まで盛り上げられる結果となりました。帰りのバスで取ったアンケートでは、9割の参加者から『最高/面白かった』という回答を頂けたことに感無量です。

※ひとつ前のメッツコーラのキャンペーン賞品で、走る電動クーラーボックス



↑右・レースのために埋められた Mets Cola
左・会場を盛り上げてくれた Mets Girls



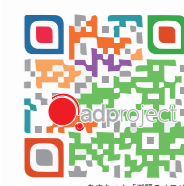
↑ Mets Cola Staff

Project 4.



EXECUTIVE PRODUCER : 岩下 信而

- 2013年エンタメを振り返って「やっぱ、音楽でしょ」



「ドリフターズ以前の映像が残っていないから日本のテレビはつまらない」愚にもつかないバラエティを垂れ流し続けているテレビ業界をシニカルに例えた通説です。ほくも負けじと自説を唱えると…「タモリ、たけしにもう少し音楽の才があれば日本のエンタメはもっとウェルメイドであつたであろう」ふたりとも JAZZ にタップにと造詣が深いのだが、パフォーマーとしての音楽性は残念なところがある。清水ミチコとは言わないが、せめて伊東四郎や三宅裕司のセンスがあれば。

というわけで、クドカン(宮藤官九郎)である。師とも言える松尾スズキが直木賞受賞、盟友 阿部サダヲがお茶の間のスターに、そしてとどめともいえる昨年の「あまちゃん」の大ブーム。まさにここ数年ですっかり日本のエンタメを席巻している感がある。彼の上手さは、ひな壇芸人のしょうもない小ネタとは格段の差がある練られた「ギャグ」と「音楽」の使い方であろう。特に音楽は、往年の杏里風「潮騒のメロディ」(途中の倍テンもすごいね)を往年のヤンキーアイドル小泉今日子&お嬢様アイドル薬師丸ひろ子に歌わせる巧妙さ。更にレッツゴーヤング風の「地元へ帰ろう」も笑えた。上質な仕事でした。

クドカンといえば、出世作「木更津キャッツアイ」など秀作は数多にあるけれど、ほくのおすすめは、あまちゃんの母親キョンキョンこと小泉今日子とミッチー及川光博による妄想コメディの秀作「マンハッタンラブストーリー」。主題歌は、ほくのカラオケのレパートリーです。キョンキョンのミニスカサンタも見られますよ、って今気がついたら、もしかしてクドカンじゃなくてキョンキョン好きなのかもね…

ではまた次回 Ciao



先日急逝した大瀧詠一さんとキョンキョンのデュエット「怪盗ルビイ」を聴きながら合掌